

「福島県環境基本計画の改訂について」に係る委員からの意見一覧

No.	資料4-3 該当ページ	番号	質問内容	質問委員
1		5 (1)	モニタリングの強化が指摘されているが、監視というのは計測ポイントを増加するだけではなく、異常値の検出に対する広報が安心を得るために重要です。線量率は原発由来以外でも変動しているので、それらに対する情報提供や変動に対するリテラシー教育も必要なのではないでしょうか。	渡邊明委員
2		5 (2)	除染の進捗が100%と記載されていますが、100%は除染計画領域の完了であり、生活環境中の下水道、田畑、森林等などの除染は終了していないのではないかと。	渡邊明委員
3		6	地下水制御(凍土壁)の早期達成と汚染水処理の安全確保、減容化施設の安全管理、瓦礫撤去時の安全確保(飛散防止策だけでなく、カバーをつけた撤去方法の検討、2号機オペフローを維持した撤去作業の検討など)、海洋放出のみならず、大気への放出削減に極力注意することなどを盛り込んでいただきたい。	渡邊明委員
4		7 (1)	パリ協定を実現するためには単なる普及啓発活動だけでは困難で、積極的な削減の方策(たとえば3R活動の積極的な支援策、再エネ社会づくりに向けたコンパクトコミュニティ、スマートグリッド社会実現など)を入れ込む必要があるのではないかと。	渡邊明委員
5		7 (1)	温暖化ガスゼロエミッション、ネガティブエミッション社会のためには森林の再生とバイオマス発電の活用は重要な事項と考えます。森林を活用した再エネ事業の展開と支援などを盛り込んでいただきたい。	渡邊明委員
6		7 (1)	排出量が1990年比で記載されていますが、一般に削減目標が記載されており、H32年10%から15%、H52年80%とした方が分かりやすいのではないかと。また、国の計画と合わせて削減量を2030年、2050年目標を追加していただきたい。	渡邊明委員
7		8 (2) (3)	「福島新エネ社会構想」がどのようなものなのかを具体的に示す必要がある。水素社会を創るにも、どのような課題があり、その課題をどのように展開するのか示されないと理解しにくいと思います。	渡邊明委員
8		9 (1)	全体的に目標が書かれているのですが、それを実現するための方法が具体的に示されておらず、スローガンになっている。基本計画なので、具体的な方法やどのように実施されているのかの「見える化」も必要ではないかと考えます。	渡邊明委員
9		13 (6)	マリッジットの利用や事故が最近目立っていますが、こうした問題による水質汚染の問題はないでしょうか。観光客対策なども積極的に進められていると思いますので記載をするとよいと思います。	渡邊明委員
10		14 (1)	最近PM2.5に加えて、VOCやナノ粒子問題が出されており、これらに対する施策の展開方向も必要ではないかと思います。	渡邊明委員
11		16 (1)	環境創造センターは研究での活躍も期待されますが、交流棟における教育・学習も期待されています。追加されるとよいのではないかと考えます。	渡邊明委員